

組織の目標設定シート(行政経営Aシート)

組織	都市計画課
職	課長
氏名	宮田 正弘

組織の使命・役割	何のために我が組織が存在するのか、我が組織が果たすべき使命・役割は何か
人口減少・超高齢化社会の進行に対応した、都市部におけるコンパクトで賑わいのある地域づくりを進める。 ・市街地の郊外への拡大を抑制し、中心市街地の住宅や商業の集積を図り、誰もが歩いて生活できるまちづくりを支援。郊外部では、拠点的な市街地形成を支援。 ・住民の参画を経て、賑わいの拠点となる目抜き通りや広場などの整備を進め、歴史的な街並みの保全などにより市街地の魅力アップを図る。 ・環状道路の整備、公共交通の利用促進、新しい公共交通の導入可能性検討を進め、交通渋滞の緩和や、人と環境に優しい交通体系を構築する。 ・副都心地域では、金沢駅、金沢港、都心部と一体となった賑わいの創出を図る。	



組織の目標	使命・役割を果たす上で、我が組織が目指すゴール(成果)は何か、その目標値はどのような水準か				
(定性的目標)	何をどのような状態にしたいか				
①情緒ある街並みとコンパクトでにぎわいのあるまちづくりの推進。 ②景観総合条例による美しい景観の保全と創出。 ③兼六園周辺文化の森の回遊性向上。 ④人と環境にやさしい都市交通基盤の整備。					
(定量的目標)	具体的な指標、目標値を設定する				
目標とする成果指標	現行値	年(度)	目標値	年(度)	目標値の設定根拠(他県との比較など)
①にぎわいのある地域づくりのためのまちづくり活動団体(※1)数	205 団体	H23 年度	150 団体	H27 年度	石川県新長期構想(改定)より
②住民が主体となって街並み景観形成のための「まちづくり協定(※2)等」を締結した地区数	114 地区	H24 年度	100 地区	H27 年度	〃
②景観形成重要地域(※3)の指定箇所数	11 地区	H24 年度	11 地区	H27 年度	〃
③兼六園周辺文化施設の年間入場者数	約67 万人	H24 年度	約65 万人	H25 年度	県文化振興課における目標設定値
④ラッシュ時間帯(※4)における都心軸(※5)を通過する車両の走行速度	約18 km/h	H23 年度	約20 km/h	H27 年度	石川県新長期構想(改定)より
④渋滞交差点の箇所数	31箇所	H23 年度	0箇所	H27 年度	「CO2削減アクションプログラム」(H17.12石川県道路交通渋滞対策協議会)
④Kパーク(※6)の設置台数	409台	H24 年度	2,100台	H27 年度	新金沢交通戦略より

※1にぎわいのある地域づくりに向けた活動を行っているまちづくり団体(NPO、まちづくり協議会など)
 ※2住民主体で、美しい街並み景観の形成を目的として定めたルール。
 ※3県土の景観形成上必要があると認め、県が指定した地域。能登有料道路沿線地域、加賀産業開発道路及び国道8号小松バイパス沿線地域、能登空港周辺地域の3地域が指定済み。
 ※4朝(7時半～9時)、夕(17時～18時半)
 ※5国道157号のうち武蔵ヶ辻交差点～野町広小路交差点間
 ※6商業施設等の駐車場で、マイカーからバスや電車に乗り換えて金沢市中心部に通勤するシステム

25年度に重点的に取り組むべき課題	左記の具体的な内容を記載する
①にぎわいのある魅力的なまちづくりの推進	市街地再開発事業や土地区画整理事業、街なみ景観魅力アップ整備事業、まちづくりと一体となった街路整備事業等を活用し魅力ある市街地の整備を進める。
②良好な景観形成の推進	いしかわ景観総合条例に基づき良好な景観形成施策を推進する。
③兼六園周辺文化の森の回遊性向上	兼六園周辺において、歩行回遊性向上のため、アメリカ楓通りにおいて、道路の修景整備を行うとともに、さらにライトアップを行うことで夜間の観光客の増加を図る。
④都市交通基盤の整備・公共交通への利用転換	環状・放射道路の整備や、渋滞ポイントの解消、パークアンドライドなどの公共交通の利用促進により交通混雑の緩和、環境負荷の低減を進める。